

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 -)

事業所番号	O671100337		
法人名	ふるさと企画 有限会社		
事業所名	グループホーム大手町		
所在地	山形県新庄市大手町2番83号		
自己評価作成日	令和 4年 9月 20日	開設年月日	平成 16年 3月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市の中心部に位置しており、窓からは花火・祭りの山車が見える恵まれた環境にあります。現在、外出はまだ難しいが、以前は近くの市民プラザや図書館・歩いて行ける最上公園などに、催し物を見に行ったり地域交流ができていました。同町内にあるグループホーム大手町和心との交流・協力体制も整っています。現在の状況はふまえ、ご利用者方にはホーム前で日光浴を行いながらお茶の時間を過ごして頂いたり、ホーム内では軽体操・アクティビティなどで無理なく身体機能の低下防止に気を付けて頂くなどしています。また、一人ひとりの趣味や好きな事、役割の作業を行なう事で不安やストレスの解消をしつつ、楽しみを持って生活されています。普段からご家族との情報交換を密に行い、思いや不安に耳を傾けながら信頼関係を築き「共に笑ってつながって」の理念の下、ご利用者の笑顔あふれる穏やかな暮らしをお手伝いさせて頂いております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 4年 10月 25日	評価結果決定日	令和 4年 11月 16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念である「共に笑ってつながって」を日々念頭に置き、利用者一人ひとりとじっくり関わり家庭的な雰囲気の中で、時には冗談等を交えながら共に笑い和気あいあいと過ごしています。「野菜づくりをしたいな」などの意向を汲み取りプランターで色々な野菜を作り食事のメニューに摂り入れています。好きなこと得意なことをすることで笑顔と前向きな気持ちに繋げ、食事前の嚥下体操ではびっくりするほどの早口言葉でしゃべっている様子が見られます。日々の関わりでは人生の先輩である利用者から職員は教わる機会も多く励みにもなっています。様々な研修を通して研鑽に励み、介護のプロを意識しチーム全体で統一したケアに取り組んでいます。家族等との信頼関係や地域との繋がりを大切にして穏やかな生活が出来るよう支援している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己外部 項目		自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、リビング、事務所に掲示し全職員が意識できるようにしている。所内研修でも触れている。	理念は目の付く場所に掲示しいつも心に留め一人ひとりとゆっくり関わっている。会話の中で、時には冗談なども交えながら笑顔を引き出し互いに笑い家庭的な生活が出来るよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍でご利用者は地域との交流は持ていないが、事業所では町内の資源回収に協力している。また新庄市で行われたフードドライブに寄付をした。	コロナ禍で交流が制限されている中、フードドライブに食材等を初めて提供したり、資源回収への協力や福祉系学校のセミナーへ職員が講師として参加するなど地域との繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談受付中ののぼり旗を立ててはいるが、こちらから積極的に出向いたりなどはしていない。今年度、福祉系学校の就職セミナーに講師として参加した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者とサービス状況の報告は毎月行っている。コロナ禍のため、主に書面開催にしている。	会議の1回目は対面で行いその後は書面で開催し、利用者状況や行事活動の報告を行いメンバーから意見・要望をもらっている。会議録は全職員で共有を図り、外部からの意見をもらうことで気づきをサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ご利用者のサービス状況についての指導やアドバイスをいただいている。	市担当者には運営推進会議委員として出席してもらい事業所の取り組みを伝え、アドバイスをもらうなど日頃から良好な関係を築いている。殆どメールでやり取りをしているが、居宅支援事業所へは出向いて情報提供をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	外部からの侵入防止の為、玄関は常時施錠している。2F入り口は一時的に(ショート・共用型対応など)施錠しているが、その他の身体拘束は行っていない。	身体拘束の適正化のための対策を検討する委員会を3ヶ月ごとに開催すると共に職員はマニュアルをもとに研修で身体拘束について学び、全職員が理解している。利用者の行動を制止せず声がけなどに工夫し、不安なく安全に暮らせるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、職員同志連携を密にして注意を払っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族からの要望があった時には、協力し支援している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前・契約時・契約後いつでも疑問に対し説明を行っている。改定時の説明は書面にて行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを行っており、その結果と意見、要望は家族に知らせ、サービスに活かしている。運営推進会議でも報告している。	遠方の家族等も多く、事業所での暮らしの様子は担当者が本人のスナップ写真と手紙を添えて毎月知らせ、電話で意向を聞くなど家族等の安心に繋げている。家族アンケートを行い、今年度はコロナ禍での面会についての項目を入れ、集計結果を家族と運営推進会議に報告しサービスに活かしている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロア会議・職員会議で意見や提案を出してもらい、運営に反映させている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ助成金や両立支援助成金などを積極的に活用している。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のための研修の機会を確保している。	年間計画に沿い、2ヶ月毎に様々な内部研修を実施し、計画作成者担当者研修の外部研修にオンラインで参加してスキルアップを図っている。職員のメンタル面は職員同士の普段の会話の中から汲み取れるよう、管理者はきめ細やかな気配りしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	最北地区GH連絡協議会で、Webで情報交換をしている。	最北地区グループ連絡協議会へ加入し、3ヶ月毎に管理者がオンラインで「おらだの会」に参加して互いに情報交換を行っている。近況報告やコロナ禍での面会や人員不足の話題などを通してサービスの質向上に繋げている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面談ではご本人に会い、直接話を聞いている。また、担当ケアマネージャーから詳しく情報をいただいている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前面談において、ご家族の不安や要望を聞き取り、安心してサービスを利用できる関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネージャーと密に連絡を取り、本人と家族の今必要な支援が適切にできるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で出来る事を一緒に行い、お互いの信頼関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会ができない間は、電話等で状態を伝えたりして情報共有を行っている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会ができない時は電話等でコミュニケーションがとれるよう配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の食席への配慮や、得意な事の役割を持っていただくなどしている。全員でのアクティビティも職員がうまく関わっている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍で面会はできないが家族が電話をしてきてくれた際は対応している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族の要望やヒストリーを基に本人の趣味や、したい事、出来る事を見出し、本人の希望に添うよう支援を心掛けている。	生活歴から本人のやりたいこと・できる事に目を向け情報収集し、思いの把握に努め、関わりでの気づきは情報ボード・生活記録、健康観察記録・業務日誌で共有を図っている。野菜作りの好きな利用者がプランターで色々な物を作り収穫して食事に採り入れ、満足した笑顔が見られている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、ケアマネージャーから情報をもらい、入居後もアセスメントシートを用いて情報の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録や日々の引継ぎから、本人の様子や身体の状態を細かくチェックしている。また、アセスメントシートも定期的に見直している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアプランチェック表を基に、更新前に個別支援会議を行い、評価や改善点を話し合っている。また、ご家族に報告し確認、意見を聞くようにしている。	入居後10日間経過するまでの生活の様子を見て家族・居室担当者・ケアマネージャーからの情報・生活記録を基に「本人の意思」を大切にしてプランを作成している。定期的に個別支援会議を開き見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、健康観察記録書、ケアプランチェック表を日々記録し活用、情報の共有を行っている。また、情報ボードを活用したり、口頭での情報を共有しケアの統一を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在の状況では地域の方々との交流は難しいが、出張理容の活用を対策万全に行っている。以前は防災訓練へ参加していただいたり、町内の芋煮会に参加できていた。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム協力医だけでなく、本人や家族の希望に沿って主治医を決めている。年1回の健康診断や毎月の協力医の往診はご利用者全員が受けており、他の専門医の受診が必要な場合は職員が付き添いを行っている。受診結果は特変があった場合家族に報告し安心に繋げている。	毎月往診してくれる協力医を利用者全員がかかりつけ医としている。他科通院時は原則家族同行で日頃の身体状況を知らせる連絡票を持参し、結果や指示を記入してもらっている。コロナ禍のため状態変化ない時は薬処方のみをお願いしている。看護師とは24時間オンコール体制をとり急変時に備えている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の状態を看護師に伝え診てもらおうようにしている。情報を共有した上で協力医に指示を仰ぎ連絡調整を行っている。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急以外は協力医の紹介状を持参し入院までの経過報告と、情報提供を行っている。また、入院も週1回病院訪問を行い状態の把握に努めている。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に契約書を基に説明している。看取りの前段階までの支援を安全に行えるよう、医療機関、家族と相談の上、支援のあり方を検討している。	看取りの前段階までの支援をすることを入居時に指針をもとに説明し、利用者・家族等の理解を得ている。バイタルの低下や経口食事が出来なくなってきた時には医師と相談し、家族等へ状態を説明して意向を聞きとりながら入院や他施設への入所などを選択してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対策マニュアルを設け、緊急時には職員全員が即座に対応出来るよう訓練している。夜間帯は和心からの協力を得られるよう、対応マニュアルを基に話し合いをしている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行い昼夜の対応を確認している。訓練には近隣住民の方や和心からの協力も得られるようにしている。	4月に火災、9月に地震避難訓練を行い、居室の避難プレートの確認やガス元栓閉止、怪我のない誘導などそれぞれの役割を確認している。訓練後、慌てず行動することが大切など反省点を話し合い災害に備えている。また業務日誌のチェック項目を日々確認して、防災意識を持ち業務についている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりのヒストリーや、今までの暮らしぶりを考え、その人の人格やプライドを損ねないような話し方や対応をしている。	入居前に利用者・家族等と話し合いを持ち、生活歴や得意なこと、どのように生活したいなどの情報を確認している。記録を職員は共有してその人を知り人格やプライドを尊重した支援を心掛けている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう工夫した問いかけをしたり、しぐさを見極めながら本人の意見を持つよう心掛けて掛けている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりがやりたい事をやりたい時に行えるよう、見守り、付き添いのもと自由に過ごしている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選んだ衣類を入浴前に準備したり、主張理容を利用したりと身だしなみ整えている。クリーム等もご本人好みの物を購入し使用している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりができる事を役割とし、食事の準備や後片付けを協力して行っている。	メニュー・食材は配食サービスを利用し職員が手づくりしている。スムーズに食事が摂れるように食事前には嚥下体操を行い、食後は本の読み聞かせなどで静養してもらうなど、食事時間を大切にしている。毎月調理会議を開き利用者の意見や希望を話し合いホームメニューに取り入れており、特に麺類やまぜご飯などが好まれている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	福祉施設向けの配色サービスを利用し、栄養のバランスの摂れた食事を提供している。水分補給も一人ひとりの体調に合わせて提供している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けを行い介助が必要な方は見守り、職員付き添いの基行っている。必ず最終確認を行い状態の把握に努めている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期での声掛け、誘導を行いトイレでの排泄を習慣付け、失禁を軽減できるよう努めている。	チェック表により一人ひとりの排泄パターンを把握し、食事前や就寝前など定時で声掛け誘導している。トイレでの排泄の習慣化で自立に繋げ、就寝前の誘導時にパットの汚れ等を確認して不安なく休めるようにしている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を把握し、下剤の管理を行っている。水分を摂取していただくよう声掛けを行い、歩行運動や身体を動かすレクリエーションや体操を行っている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴日を設けている。入浴時は身体の確認を行い、また湯あたりや転倒に注意しながら見守り、介助を行っている。	週2回火・金曜日を入浴日として順番や湯温・シャワー浴など利用者の希望を聞き、気持ち良く入れるようにしている。職員と1対1の時間となり、会話ははずみ本音や思いを聞ける良い機会となっている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や、状況に応じて休息をしていただいている。就寝時は季節やその人に合った寝巻き、寝具を選び安眠出来るよう支援している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状況を把握しやすいように様式にまとめ確認をしている。普段の健康状態を周知し体調に急変があった際は協力医に指示を仰ぎ対応をしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や得意な事を把握し、洗濯物たたみやゴミ箱折りをさせていただいている。長寿会やホームメニューの時はリクエストメニューを提供している。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在の状況では外出は難しいが、四季折々の風景を車窓から楽しんでいただく為のドライブに出かけたりしている。また、季節ごとの行事やおホーム内で行い少しでも気分転換を図れるよう支援している。	コロナ禍のため散歩や買い物など日常的な外出は難しい状況となっている。ドライブには出かけ四季折々、車窓から満開の桜や菜の花畑などを見て季節を感じてもらっている。今年、新庄まつりの山車行列を見学出来たことが数少ない機会となっている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭の所持は禁止している。ご家族からの現金を預かっている方もいるため、必要品購入時はご本人と家族の要望を確認し買い物の支援をしている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望がある時は、ご家族が対応できる曜日や時間を考慮し通話できるように支援している。携帯電話を持っている方は居室にて家族と自由にやりとりできるようにしている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いて過ごせる居場所を提供し、リビングも過ごしやすように工夫してしている。季節ごとの装飾を作成し、共用の空間でも落ち着いて過ごしていただけるよう支援している。	落ち着いた雰囲気のリビングに利用者とともに作った作品を壁面に装飾し季節を感じてもらっている。利用者同士がソファに座って会話を楽しみ、テレビ観賞しながら思い思いの居場所で日中のほとんどの時間をなごやかに過ごしている。換気や手を触れる場所の消毒で感染症に留意している。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士がソファに座って会話を楽しんだり、食堂の席で過ごしたりしている。家具の配置を考え心地よく過ごして頂けるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>見覚えのあるものや、使い慣れたものを置いたりしている。ご家族や行事の写真を飾ったりして自分のための居室で安心して過ごせる工夫をしている。</p>	<p>各部屋に洗面台が設置され、朝の洗顔や鏡を見ての整容が出来るようになっている。馴染みの品やソファ・衣装ケースなどを持ち込み一人ひとりがその人に合った暮らしが出来るよう部屋作りをし、動線の確保で安全にも配慮している。掃除は出来る人は本人が行い、清潔感を保っている。</p>	
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレへの目印を付いたり手すりやテーブルのつかまって移動できるよう、安全を考慮した環境作りを行っている。</p>	/	/